

—大野市におけるまちなか居住のあり方の新たな提案—

関西大学大学院 藤原康晃 九州大学大学院 瓜生宏輝
 弘前大学 B4 成田梨菜 福井大学大学院 福田善成
 首都大学東京大学院 澤田昇平

—大野市について—

大野市は福井県の東部に位置し、市街地はかつての城下町の面影を強く残し、越前の小京都と呼ばれている。春分の日から積雪までの間に七間通で開かれ400年の歴史を持つ七間朝市は、大野の観光名物である。冬季は市全域が特別豪雪地帯に指定されているほどの降水量がある。

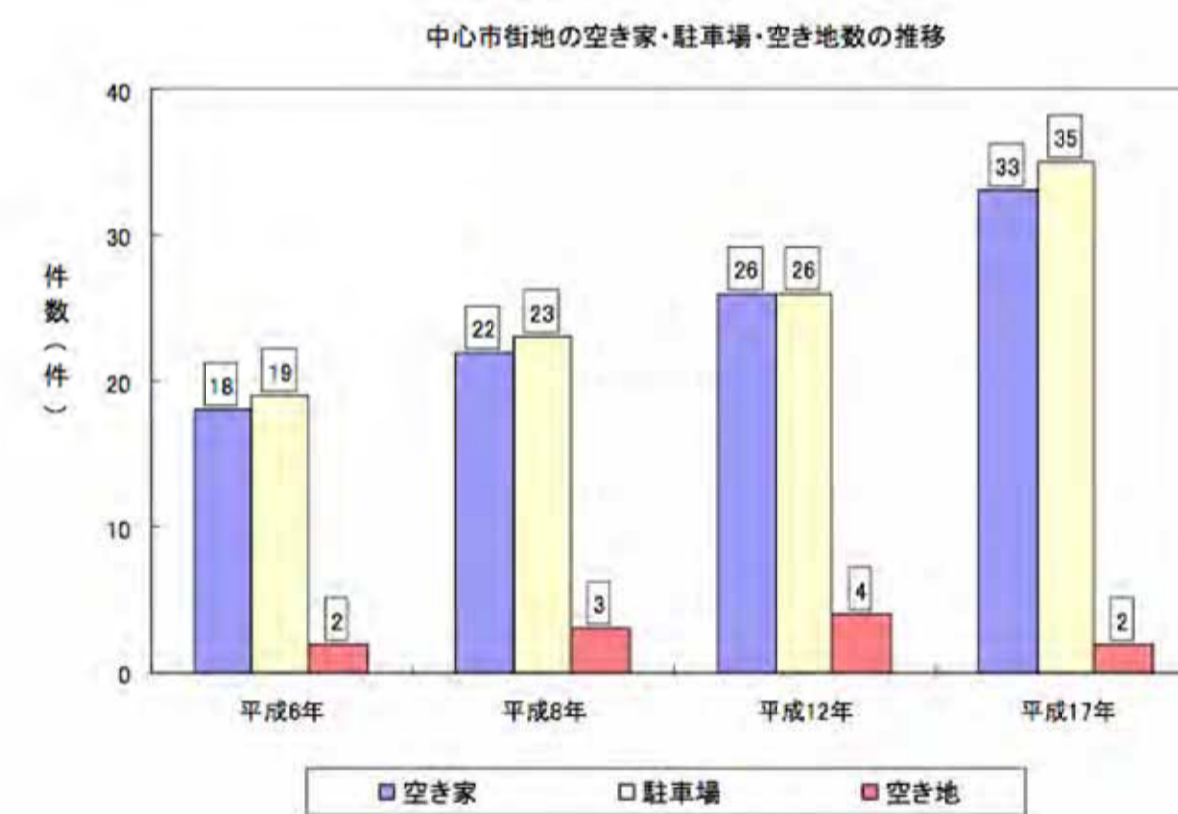
[街を歩いて感じた大野の魅力と感じる場所]

- ・子供達みんなが挨拶をしてくれる
- ・朝市
- ・山に囲われているというところ
- ・御清水の魅力
- ・朝市で出会うお店の方々が素敵な人物であること
- ・伝統的な立面の統一感
- ・ゆったりとした街の雰囲気
- ・水の音がよく聞こえてくる

その一方で、

- ・空き家の多さ
- ・空地の多さ
- ・人口の少なさ
- ・街区の内部の老朽化
- ・若手の少なさ

といった今大野市の抱えている課題を顕著に伺えることができた。



このような課題に対し、まちなかでの居住を進めていく必要があり、これまでに大野市は「まちなか町家くらし支援事業」や「越前大野伝統民家普及促進事業」といった政策をとってきた。

このような政策が主に外観に対する政策だったのに対し、私達は大野に住む居住者・移住者の視点から見た居住環境の改善を目指す案を提案する。

では、居住者・移住者の視点から見た現在の課題点はどういった事なのだろうか？

